

船舶事故調査報告書

平成30年3月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成29年11月13日 09時40分ごろ
発生場所	香川県 ^{みとよあわ} 三豊市粟島南方沖 箱崎灯台から真方位108° 1.6海里付近 (概位 北緯34° 15.1′ 東経133° 37.3′)
事故の概要	プレジャーボート正義丸Ⅱは、南西進中、また、プレジャーボート アールエムエス RMSは、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成29年11月21日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 正義丸Ⅱ、5トン未満（長さ6.27m） 280-37401香川、個人所有 B プレジャーボート RMS、5トン未満（長さ5.09m） 280-11523香川、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部外板に擦過傷等 B 船尾部外板に擦過傷等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、約5ノットの対地速力で南西進中、船長Aが、前路に他船を見掛けなかったもので、航行に支障となる他船がないものと思い、魚群探知機の画面を見ていてふと顔を上げたところ、前路で漂流中のB船に気づき、急いで機関を中立にしたものの、B船と衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、船首を南西方に向けて漂流中、船長Bが、左舷船縁で右舷方を向いてしゃがみ込み、用便を足していたところ、船尾方から接近して来たA船に気付いて間もなく、A船と衝突した。
分析	A 船は、南西進中、船長Aが、魚群探知機の画面を見ていて船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂流中のB船に気付くのが遅れ、B船と衝突したものと考えられる。 B 船は、漂流中、船長Bが、用便を足していて周囲の見張りを適切に行っていなかったことから、船尾方から接近して来たA船に気付くのが遅れ、A船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、A船が南西進中、B船が漂流中、船長A及び船長Bが共

	<p>に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航行中は、他のことに没頭することなく、常時適切な見張りを行うこと。 ・ 漂泊中であっても、周囲の状況を確認し、他船の早期発見に努めること。